

令和 4（2022）年度カタクチイワシ瀬戸内海系群の 管理基準値等に関する提案

国立研究開発法人水産研究・教育機構並びに共同実施機関は、令和 4（2022）年度カタクチイワシ瀬戸内海系群の管理基準値等に関する研究機関会議において、令和 5 年度以降の資源評価に必要な科学的パラメータについて議論し、以下の点を提案する。

適用する管理規則

「令和 4（2022）年度漁獲管理規則および ABC 算定のための基本指針（FRA-SA2022-ABCWG02-01）」で示された 1 系資源の管理規則を適用する。

管理基準値案

- ・ 目標管理基準値案は、親魚量（SBmsy）で 43 千トン
- ・ 限界管理基準値案は、親魚量（SB0.6msy）で 17 千トン
- ・ 禁漁水準案は、親魚量（SB0.1msy）で 2 千トン
- ・ なお、最近年（2021 年）の本系群の親魚量は 89 千トンである。最近年の漁獲圧は目標管理基準値案を実現する漁獲圧（Fmsy）を下回る。

調整係数 β

- ・ β が 0.8 以下であれば、10 年後の親魚量が目標管理基準値案を 50%以上の確率で上回ると推定された。

その他

- ・ 再生産関係のパラメータ推定に使用するデータは、令和 4（2022）年度の本系群の資源評価で推定された 1981～2020 年の加入量および親魚量である。
- ・ 本系群の資源評価は、漁業・養殖業生産統計における「かたくちいわし」銘柄の漁獲量からシラス（1・2 月齢魚）分を除いた漁獲量に基づいて行っていることに留意が必要である。
- ・ 再生産関係には、自己相関を考慮しないホッケー・スティック型再生産関係を適用した。パラメータ推定には最小二乗法を用いた。
- ・ 目標管理基準値案での親魚量（SBmsy）で期待される漁獲量（MSY）は 39 千トンである。
- ・ 本提案は調整係数 β を 1 から 0 の間で 0.1 刻みに検討した将来予測結果に基づく。なお、将来予測における漁獲管理規則での管理開始年は 2023 年とした。
- ・ 将来予測における 2022 年以降の漁獲量についても、漁業・養殖業生産統計における「かたくちいわし」銘柄の漁獲量からシラス分を除いた漁獲量に相当するものであることに留意が必要である。